

学校教育学部発

—近頃の若いもんは—

「近頃の若いもんは素晴らしい」は、私の実感。凡人である私の若い頃に比べると余程優れていると心底思う。たまたま私の周りにいる学生たちがそうなのだろうか。

わが美術教室のM君のこと。「広大のキャンパスマップをつくるんだけど、イラスト手伝つてくれないかなあ」。即座に「いいですよ」と徹夜で仕上げてくれた。

我が学部だけではない。経済学部のT君のこと。「広大フォーラムにへール・ポップ彗星の写真がほしいな」「ちよいと足摺岬まで行ってきます」と撮影してきてくれた。本号の表紙になっている。

私のゼミには日本海に重油の処理にいったMさんもある。

無用の躊躇逡巡はない。私など及びもしない決断力と実行力を備えた頼もしい若者たちではある。

法学部・経済学部発

—東千田キャンパスに新校舎完成

平成九年一月、東千田キャンパスに法学部・経済学部東千田校舎が完成し（本号十頁参照）、二月二十一日に引っ越しを行った。

新校舎は六階建てで、一階には学部事務室と教育用計算機室が、二階から五階までは講堂・演習室・学生控室が、六階には体育室が設けられ、夜間の教育研究の新たな活動の場として期待される。

また、東千田共用施設（旧大学会館）には、一階に警備員室・附属図書館の東千田分室や食堂・売店、二階には講義室・面談室・教官控室、地域経済研究センターと課外活動施設（サークルボックス）が、三階には教官控室が設けられている。

したがってこの四月からは、東千田校舎、

東千田共用施設及び旧教育学部講義棟の三建物でスタートする。今後とも広島大学発祥の地として、順次キャンパス内の整備が実施されていく予定である。

（法・経済学部会計係 藤田純一）

生物生産学部発

—今年の農場駅伝

学部改組、大学院整備、移転、カリキュラム改革、大学院再編などの大改革も一段落し、久しぶりに平穏な年度始めを迎えている。九月末に本学部を中心に開催が予定されている日本水産学会秋季大会以外は大きな行事は聞こえてこない。

もう一昔（十年）も前の福山時代には数回あった全構成員参加の学部行事が、夏の「草取りとビアパーティ」と初夏の「農場駅伝」だけになってしまっている。

平成九年度は、六コース制の最初の四年生が各教室で卒論研究に入る。この学生が中心になって教室単位の駅伝チームが作られるが、今年はどうなるか、期待半分と心配半分である。

一年生から三年生諸君はもとより、他学部のチームもぜひ参加され、春のイベントの一つになることを望む。

（生物生産学部広報委員 岡本敏一）

国際協力研究科発

—研究棟の建設、急ピッチ

拠点となる建物がないことが、国際協力研究科の発足以来の懸案で、現在も西図書館をはじめ各局に間借りをするという変則的な状態が続いている。しかし、この悩みも平成九年度中には解消される。すでに、バス停「大学会館前」の南に研究科長年の悲願であった本館（研究棟）が着々と建設されている（写真は三月十二日撮影。また、完成予想図は本誌十七ページを参照。）



研究棟は八階建てで、延床面積約七千平方メートル。講義室、実験室、教官研究室、事務室はもとより、情報検索・処理スペースは五階に、図書・資料室は六階に配されている。院生室にも大きなスペースが割り当てられている。

研究科の教育研究の飛躍的な発展のために、教職員・院生一同、一日も早い完成を切望している。また、研究棟とは別に、実験棟と動物舎の建設も予定されている。

（国際協力研究科広報委員 成定 薫）

読者からの手紙

広報委員会に次のような手紙が届きましたので紹介します。

先日、久しぶりに昔のサークル仲間と会食した。

その時話題になったことの一つは、「広島大学新聞」の勧誘の問題であった。その場所に居合わせたほとんどの人が勧誘を受けたという。自宅だけではなく勤務先にも勧誘があったということであった。

その方法は、まず女性の声で新聞の購読（二万円）または新聞への氏名の掲載依頼があるという。ある人は「原理解の新聞じゃないのか」と言ったところ、突然ブツンと電話が切れたという。

昭和四十年代後半に学生生活を送った我々にとって、当時の学内には、文サ連から発行していた「広島大学新聞」、原研が発行していた「広島大学キャンパス新聞」、体育会が発行していた「広島大学体育会新聞」の三種類が発行されていたと思う。もっとも原研は「世界学生新聞」というものを学外では発行していたようである。現在では、「キャンパス新聞」改め「広島大学新聞」だけが残っているようである。

問題点は勧誘の方法である。もちろん、思想、信条の自由を否定するものではないが、同窓会名簿から調べたと思われる連絡先で同窓生に購読を強要するというようなことは行き過ぎではないだろうか。その場合、広島大学公認とも思われる表現で同窓生の錯誤を利用して勧誘することは、さらに問題点があると思われる。

同窓生の善意を利用するのは止めてもらいたい。

